

厚生文教委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 令和5年10月16日(月)

- 2 視察先及び項目
東京都調布市 知的障害者援護施設について

- 3 参加者 委員長 吹春 やすたか
副委員長 水谷 たかこ
五十嵐 京子
鈴木 成夫
渡辺 ふき子
高木 章成
片山 かおる
森戸 よう子
同行 大澤 秀典(福祉保健部長)
天野 文隆(自立生活支援課長)
随行 薄根 健史(議会事務局)

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

(別紙1)

視 察 概 要	
【視察日程】 令和5年10月16日	【視察先】 東京都調布市
【視察項目】 知的障害者援護施設について	
【視察目的】 厚生文教委員会では今期の柱の一つである「障害福祉計画及び介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画について」調査を行なっている中で、「障害者支援施設を小金井市内に作ることを求める陳情書」が提出された。陳情は全会一致で採択されたが、委員会で事業所を見学する事が必要と判断し、「障害者支援施設」への理解を深めるための視察を行った。	
【事業の概要】 1、施設の運営について 2、障害福祉サービス内容について 3、施設入所支援について 4、短期入所ショートステイについて 5、利用者の1日の流れ、日中活動について 6、施設の年間行事について 7、施設の課題について	
【所感、課題等】 委員1 開設23年目で入所者の高齢化が課題。居室の個室化、体力維持の工夫など、時代に合わせ支援内容も変化した。調布には定員80人の入所施設がもう1箇所あり、調布市の人口23.7万人で全体の定員は140人。小金井市の人口は約半数と考えると、施設定員は60～70人は必要と感じる。今後、小金井市での施設建設には敷地確保が最大の課題だが、障がい当事者と当事者家族の願いの実現に早急に取り組む必要があると感じた。 委員2 丁寧なご説明と施設を見せていただき、大変勉強になった。3市での運営規模なので、小金井市の規模がどの位が適切かの検討、そして場所については国有地や所有地も視野に入れ、定期借地を交渉するなど様々な方法の検討が必要と思う。こうした施設を必要とするご家庭は、親御さんの体力の限界が迫る時に現実の課題になるのが実態なので、小金井市でもできるだけ早く具体的な検討に着手することが必要と思う。 委員3 なごみ園は、三鷹・府中・調布の3市によって開設された入所型の知的障害者支援施設で、基本的に3市の方が対象となっている。定員は60人で、ショートステイ12人のほか通所者30名を受け入れており、緊急的な受け入れも可能となっている。広い敷地を生かした日中活動も多彩で、個々の特性に合わせた活動が工夫されている。我が市も規模は	

小さいが、小金井らしい環境を生かし、地域で暮らせる喜びを感じる施設を作って欲しい。

委員 4

約30年前の平成5年の3市合意に始まり、同11年に事業団を設立、同12年4月に事業開始という時間軸を伺い、本市との大きな違いを感じた。事業開始から23年が経ち、入所者が高齢化して改修工事等が必要になったことも参考になる。施設は明るく、スタッフの対応も素晴らしかった。事業団による運営や用地取得等、本市においては条件が異なる点が多いと思われるが、民間との協働等も含め、早急に研究が必要である。

委員 5

知的障がい者入所施設の見学は初めてだったが、映像などで見ていた、同時代に作られた他地域の入所施設とほぼ同じようなものだったと感じた。近年の虐待問題などで指摘されている鍵の開け閉めが非常に気になっていたのが注目していたが、入所者の状況によって取り扱いに違いがあった。入所と言ってもグループホーム等の小規模の施設の必要性について職員の方が話されていたことが印象的である。

委員 6

知的障害者援護施設なごみについては、入所施設としてボランティアの受け入れやイベントにより地域社会と接点を持つ工夫をしている点が興味深かった。それが障がい者自身の生きがいにつながると実感した。小金井においても入所型福祉施設を設置していく必要があるが、地域社会との接点を考えて整備していく必要があると考えた。また、自治会により当事者が生活や施設運営に意見が述べられるようにしていることも興味深かった。

委員 7

「障害支援施設を市内に作って欲しい。」1通の陳情書が視察のきっかけであった。人は人として、誰でもその存在を尊重され、人として生活出来る環境を整備するために政治は力を発揮しなければならないことを再認識させられた。視察した施設には土地や資金など解決でき大きな理解の元に運営されているが、無理な発想や無いものねだりなどに考えを持って行かずこれからの在り方を見出せる対応を求められていると強く感想を持った。

委員 8

同施設は、入所支援と短期入所、生活介護と就労継続支援B型の施設として平成12年4月に開設。三鷹、調布、府中の3市民を受け入れており、運営費も3市で負担している。運営主体は、「調布市社会福祉事業団」という半官半民の法人が運営。定員は60人と規模も大きい。こうした施設が20年以上前から設置されていることに、小金井市の遅れを感じざるを得ず、小金井市でも、早急に設置できるように、働きかけていきたいと思った。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 38,500円

〈内 訳〉 交通費 (マイクロバス) 38,500円

2 執 行 額 38,500円

〈内 訳〉 交通費 (マイクロバス) 38,500円

3 差 引 残 0円